

科目名		担当教員名	学期
証券化取引 Securitization Transactions		北原 一功 斎藤 創 中澤 栄仁	後期
目的	金融システムにおける証券化の位置づけ、仕組み、証券化関連の法制度と会計税務、関係者の役割、リスクとリターン、投資判断における留意点とプロセスを理解し、実際の金融業務や投資に生かせる知識を習得する。		
概要	<p>証券化を網羅的に理解するには、法律、システム、格付、会計税務、統計、実際の金融機関との交渉など、多くの知識が必要とされる。そのため、証券化の識者であっても、すべての知識を網羅するのは難しい。本講義では、証券化実務を行う複数の専門家がそれぞれの専門領域を担当することから、受講者が実務に役立つ証券化の知識を体系的に学べるような講義を行うように努める。</p> <p>講義の最初は、基礎知識の習得を目指す。証券化の概要、制度、現状、今後の方向性、経済や金融活動における証券化の位置づけを明確にし、ロードマップを示す。</p> <p>講義の中盤は、法律と会計税務の知識を身につける。証券化の基盤となるのが法律と会計税務の知識であり、正しい理解には欠かせない領域である。</p> <p>講義の後半は、中盤までの講義を前提として、諸事例について解説し、問題提起を行い、応用分野を学習する。証券化格付の基礎を理解するとともに、証券化対象アセットのリスクの洗い出しを行い、そのリスクに対して、契約書の手当てを含めた法的側面や計量的な側面から、どのように評価を行うかを学ぶ。また、ケーススタディーやディスカッションを通じて、自分ならどのように評価を行うか検討する。</p>		
到達目標	証券化商品に関する業務や投資に従事するに際して、実践的に役立つ知識と理解力を修得することを目標とする。同時に、証券化における金融機能のアンバンドリングを様々な金融業務において応用できるように、基礎的な発想方法を理解する。		
成績評価の基準と方法	証券化関連の『法律、会計税務』で50%、『証券化格付と実践』で50%のウェイトで評価する。 評価は、理解度チェック、出席で行う。		
履修条件	特になし。		
授業計画			
第1週	イントロダクション (北原・斎藤・中澤)		
第2週	証券化の概要・金融システムにおける位置づけ (北原)		
第3週	金銭債権証券化の基礎的スキームと各種法的問題(1) (斎藤)		

第 4 週	金銭債権証券化の基礎的スキームと各種法的問題（2） （斎藤）
第 5 週	特殊な証券化（クレジットデリバティブ等）及び新しい金融商品 （斎藤）
第 6 週	証券化全般における会計税務の基礎 （中澤）
第 7 週	金銭債権証券化関連の会計税務 （中澤）
第 8 週	不動産証券化・プロジェクトファイナンス関連の会計税務（中澤）
第 9 週	法律、会計税務に関する「中間理解度チェック」 （斎藤・中澤）
第 10 週	信用格付の枠組みと証券化商品格付の基礎 （北原）
第 11 週	ABS（リース料債権、手形・売掛債権等）の格付評価とその実践 （北原）
第 12 週	RMBS（住宅ローン証券化）の格付評価とその実践 （北原）
第 13 週	アービトラージ型 CDO（債務担保証券）の格付評価とその実践 （北原）
第 14 週	CMBS（不動産証券化）の格付評価とその実践 （北原）
第 15 週	「期末理解度チェック」、事業の証券化、LBO、PFI の格付評価 （北原）
テキスト 参考書等	基本的に資料を配布する。 講義の後半には、『ストラクチャードファイナンス レーティング・メソドロジー』を配布する。 斎藤担当週は、以下の書籍を参考書として推奨する。 ・『資産・債権の流動化・証券化(第3版)』西村あさひ法律事務所編（金融財政事情研究会、2016年）
その他 特記事項	特になし。